小栗城跡

●城は栃木県との境にある山城で、土塁や曲輪、本丸、二の丸、三の丸の跡が今も残る。

小栗内外大神宮（国指定重要文化財）

●伊勢神宮と深い関わりを持ち、建築様式は伊勢神宮と同じ神明造となっている。

うわばみ池

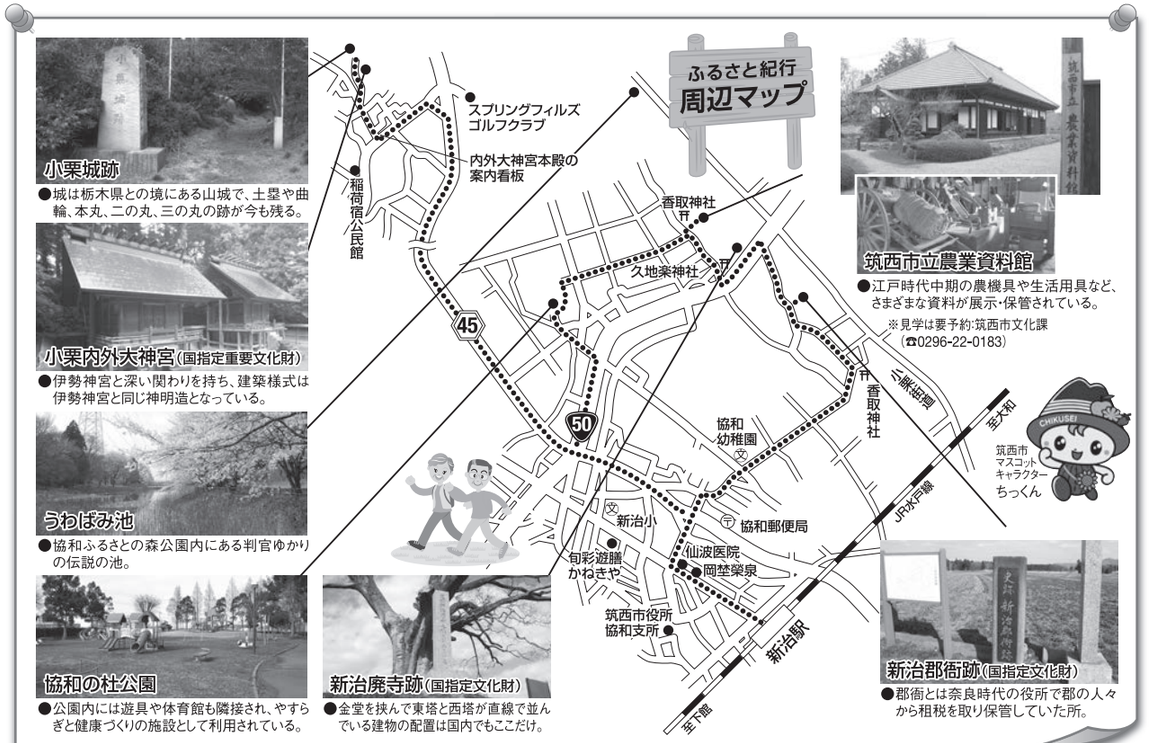
●協和ふるさとの森公園内にある判官ゆかりの伝説の池。

協和の杜公園

●公園内には遊具や体育館も隣接され、やすらぎと健康づくりの施設として利用されている。

新治廃寺跡（国指定文化財）

●金堂を挟んで東塔と西塔が直線で並んでいる建物の配置は国内でもここだけ。



筑西市立農業資料館

●江戸時代中期の農機具や生活用具など、さまざまな資料が展示・保管されている。

※見学は要予約:筑西市文化課（☎0296-22-0183）

新治郡衙跡（国指定文化財）

●郡衙とは奈良時代の役所で郡の人々から租税を取り保管していた所。

●散策コース●

駅前通りを直進して最初の信号を右折し、さらに1kmほど進み、香取神社を左折すると新治郡衙跡がある。昭和初期の調査では庁舎跡や倉庫跡51棟が確認され、現在は石碑が置かれている。国道50号を挟んだ北側には新治廃寺跡がある。奈良時代に創建された寺院の跡で、奈良、平安時代に思いを馳せるものとなっている。次は香取神社近くの筑西市立農業資料館へ。ここは江戸時代中期に建てられた大農家の建物を移設した資料館で見学は事前申し込みが必要。

体力に余裕があれば、小栗城跡、小栗内外大神宮まで足を伸ばしたい。

小栗城は平安時代末期から室町時代初期にこの地を治めた小栗氏の居城。小栗内外大神宮は大同元年（806年）ごろの創建。内宮、外宮の2つの社殿が並立する配置は国内最古といわれている。毎年春と秋には「小栗内外大神宮太々神楽」が奉納され、12場面で36の神々が登場するほか、「八岐大蛇」の舞もある。

食事は新鮮な魚料理が自慢の「旬彩遊膳かねきや」、お土産には地元の特産品こだまいかの果汁を使用した「すいか饅頭」、いちごをあんこにねりこんだ「いちご饅頭」で人気の「岡埜榮泉」がオススメだ。

筑西市の特産品を使用した薯蕷饅頭（和菓子処岡埜榮泉）

●お問い合わせ／筑西市役所経済部商工観光課☎0296（20）1160　●企画・制作／読売茨城広告社☎029（244）5555

Vol.47

駅からのふるさと紀行 JR水戸線

新治駅

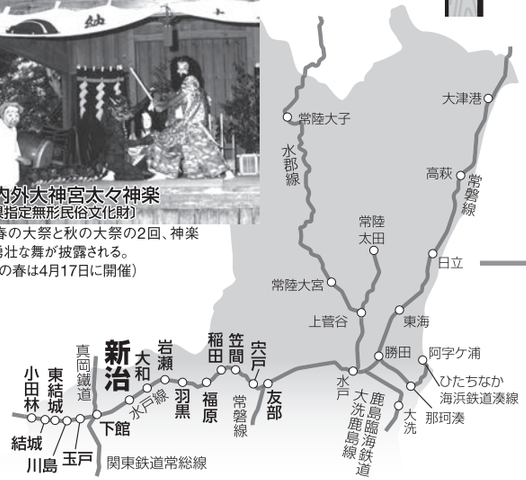
下館 ⟷ 大和

●次回は3月27日
「十王駅」を掲載予定です。

※イラストはイメージです。

小栗内外大神宮太々神楽（茨城県指定無形民俗文化財）

●毎年春の大祭と秋の大祭の2回、神楽殿で勇壮な舞が披露される。（今年の春は4月17日に開催）



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU

茨城いすゞ自動車株式会社

本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215㈹
http://www.ibaraki-isuzu.co.jp

保存版

●単式ホーム1面1線と島式ホーム1面2線のホームを有する地上駅で駅舎の前は時計回りのロータリーがあり、その中央に「不偏の和」のモニュメントがある。

●単式ホームと島式ホームを連絡する跨線橋がある。（写真右下）

「小栗判官」の舞台となった協和地区 3つの「和」が協力しあった融和の地

筑西市にあるJR水戸線・新治駅は明治28年に開業した。現在は2面3線を有し、北側にはロータリーや駐車場があるなどよく整備されている。

駅のある地区はかつての真壁郡協和町。昭和29年の合併以前は小栗村、新治村、古里村で、旧村名が駅名の由来になっている。駅前ロータリーの中心には、3つの和が結びついた石のモニュメントがある。「不偏の和」と刻まれており、3村の結束を物語っているようだ。

筑西市の協和地区といえば、説経節で語られ、浄瑠璃や歌舞伎の演目になった「小栗判官」で知られるところ。小栗城主・小栗満重や助重がモデルといわれ、地域のあちこちに伝説やゆかりを見ることができる。

歌舞伎でのストーリーは、相模の国の照手姫と結ばれた小栗が、照手姫の家族の怒りに触れ毒殺される。小栗は閻魔大王の計らいでよみがえり復讐を果たす。「猿之助四十八撰」の一つで、三代目猿之助の舞台は名作として語り継がれている。